

2 教育支援事業

教育支援事業の背景	カンボジアは長期にわたる内戦により、教育環境が破壊された歴史を持つ。内戦終結後、国連やその他援助機関の支援を受けて、自立・復興への道を歩んできた。現在では、児童の就学率は上昇傾向にあり、教育環境や内容の充実を目指す政策も見られるようになってきた。しかし、依然として2部制授業が主であり、授業時間が絶対的に少ないことにより、子ども達が情操教育に触れられる機会は少ない。
2-1 音楽教育支援  	※プロジェクトの背景はP.11参照
事業の目標	カンボジア国内のすべての子供たちが学校で音楽を学び、豊かな情操を育むことができる。
中期事業計画 (2013年～2014年)	当会がこれまで力を入れてきた現場レベルでの音楽教育の普及を継続しながら、新たな取り組みとして初等教育における生活技能プログラム指導内容作成を目指す。具体的な計画は、各年度の進捗状況に合わせて柔軟に対応していく。
事業名	2013年度の活動内容、目標など
2州を対象とした現場レベルでのアプローチ	コンボンチュナン州17校(小学校13校/中高等学校4校)、プレイベン州21校(小学校17校/中高等学校4校)を対象に、以下の活動を実施する。 1)教育関係者とのミーティング(対象者:コンボンチュナン州22名、プレイベン州37名) 2)フォローアップトレーニング(9月上旬に2州で各3日間) 3)音楽コンテスト(2014年2～3月に実施)
初等教育における生活技能プログラム指導内容作成及び対象学校内での普及	2013年度は、以下の目標を掲げ、①～④の活動を実施する。 1)小学校生活技能プログラム内で音楽を指導した場合の、指導内容案を作成する。 2)プレイベン州、コンボンチュナン州にて各1校を選定し学校内で研修を実施し、音楽を指導することができる教員を増やす。 ①対象校とのミーティング ②生活技能プログラム指導内容案の作成 ③学校内研修モニタリング ④専門家派遣
その他	1)音楽教育普及のための楽器配布 2)熊本県海外研修参加者による報告会実施

2-2 マーチングバンド支援

プロジェクトの背景	小中学校のクラブ活動(課外授業)の一環として、2000年に小山内代表の寄付と当会が募集した中古楽器により支援が開始された。2003年からは当会事業に移行。2007年にはワットブノン高校マーチングバンドが徳島での国民文化祭、JHP15周年記念式典に出演。2009年12月にはマレーシアで行われた世界大会に出場した。2012年には、プノンペン市の4校の高校でもカンボジア有権者、政府のマーチングバンド活動が開始されており、現在マーチングバンド活動を実施している学校はプノンペン市内で6校ある。(小学校2校、中高等学校4校)
事業の目標	【上位目標】教育関係者及びプノンペン市内のより多くの人々がマーチングバンド活動について知り、青少年育成活動としてマーチングバンド活動を実施する学校が増える。 【事業目標】対象校のマーチングバンド活動が強化される。
事業名	2013年度の活動内容、目標など
マーチングバンド事業	成果目標1 学校内でマーチングバンドへの理解が深まり、運営能力が身に着く。 ①各対象校の学校長とマーチングバンド活動に関するミーティングを実施する。 ②学校行事にマーチングバンドの演奏を組み込む提案をする。 成果目標2 対象校の演奏能力が向上する。 ①ワットブノン高校、クラップ1小学校、クバルチュロイサクラ小学校にて、週1回3時間の練習を行う。 ②月2回インストラクター及び教員とのミーティングを実施する。 ③年1回専門家を派遣し、トレーニングを行う。(インストラクター及び生徒の能力向上) ④JICA青年海外協力隊派遣制度と連携し、協力隊員が練習の指導に参加する。 ⑤年1回プノンペン市内においてマーチングバンド・パレードを開催する。(生徒のモチベーション向上のため) ⑥プノンペン市教育局と連携を測り、教育省やその他の機関が主催する様々なイベント活動の情報を集める。 ⑦日本での楽器集め活動の他に、他国から中古楽器の支援が得られるか模索する。 成果目標3 活動を通して、児童生徒が責任を持って活動に参加することができる。 ①メンバーが自立して活動を実施できるようになる為の組織、システムを構築する。 ②メンバーへの意識調査を実施する。 ③活動の規律を作成する。

2-3 美術教育支援

※プロジェクトの背景はP.13参照

事業の目標	カンボジアの全ての子ども達が学校で美術を楽しく学ぶ事を通して、豊かな人間性を育む事ができる。
事業の目標と中期事業計画	1)小学校へのアプローチ(2012年～2014年) 対象地域 スワイリエン州、カンボット州 【上位目標】 ①対象郡の子ども達の想像力、創造力が向上する。 ②対象郡の子ども達が継続的に学校に行くようになる。 【事業目標】 対象の小学校の美術教育の質が高まり、より多くの子ども達が美術教育に触れる機会を得る。 2)教員養成学校へのアプローチ ①教員養成学校教員の美術知識のフォローアップトレーニングを実施する。 ②絵画展に教員養成学校学生の作品を展示する。
事業名	2013年度の活動内容、目標など
小学校へのアプローチ (2012年～2014年)	成果目標1 教育関係者が美術教育の重要性について理解する。 ①教育関係者とのミーティングの実施 ②教育関係者対象の研修の実施 成果目標2 トレーニングに参加する小学校教員の美術教育に関する知識が深まり、指導力が向上する。 ①対象者の意識調査及びニーズ調査 ②生活技能プログラムの指導内容案を作成する。 ③対象校教員に対する研修(郡教育局職員、小学校教員) ④トレーニング参加者の能力を評価する。 成果目標3 対象構内で、社会科及び生活技能プログラムの時間を使った美術教育が実施される。 ①学校内で他教員に対する研修会が実施される。 ②学校内全体で美術教育が実施される。 ③対象校に画材を寄贈する。 成果目標4 地域住民や保護者が美術教育に対する理解を深める。 ①地域住民や保護者の美術教育に関する意識調査を実施する。 ②対象郡で絵画展を実施する。 ③絵画展表彰式を実施する。 ④絵画展展示作品を掲載した画集を作成する。
教員養成学校へのアプローチ	1)美術教育実施の為の人材育成 ①教員養成学校教員対象に、小学校で活用できる題材(創造力を育むことに重点を置く)をテーマにプノンペン市内でトレーニングを実施する。(4日間×1回) 2)画材支援 ①スワイリエン州、カンボット州の教員養成学校で美術授業を実施することが出来るように画材を寄贈する。 3)巡回絵画展への出展依頼 ①トレーニングの際に2013年度の絵画展の説明を行い、絵画展への作品出展を依頼する。(1校5点) ②プノンペン市内で各校から出展された絵画の作品審査を行い、賞を決定する。 ③新対象地域(スワイリエン州、カンボット州)での絵画展実施後、対象校に対し画集を寄贈する。

2-4 児童養護施設等支援

※プロジェクトの背景はP.14参照

事業の目標	中期事業方針(4)の達成。CCHについては、子ども達が将来にわたり安心して生活や就学ができるように、運営費や教育基金の支援を行う。同時に、必要とされる教材、生活用品等を支援する。
中期事業計画 (2012～2014年度)	1)CCHについては、第2期支援(2009～2014年)を継続する。また、第2期支援の評価を行い、第3期支援の必要性や内容について検討する。 2)カンボジアからの研修生等の受け入れについて、日本の支援者側の情報を収集し、具体的な実績をあげる。
事業名	2013年度の活動内容、目標など
児童養護施設支援	1)11年目(第2期支援の5年目)の支援として、現在約92名の子ども達を抱えるCCHの運営費(15,000ドル)、教材、生活用品等を支援する。 2)中期計画に掲げている第2期評価の準備として、評価項目の検討、評価メンバーの人選を行う。 3)CCHの子どもが日本での職業訓練や研修機会を希望する際に受け入れに協力する。
研修サポート	日本での職業訓練や研修、ホームステイ等を希望する教員や学生の受け入れに必要なに応じて協力する。特に、熊本県海外技術研修員制度へプレイベン州バティ小学校のカエウ・サラエン先生を推薦する。